



南の 柯の 夢の

新研 策下

編者 曲亭 畫匠 北齋

節標 全傳

笠屋 三之 赤根 半七

第四ノ卷



特別
 ~ 13
 3148
 4



待
へ13
3148
4

三七 全傳南柯夢卷之四

東都

曲亭馬琴編次



真葛が朝風

今市全八郎。布施蝶九郎ハ。よの夜さう三勝をぬたて奪去す三條
 河原まで来つると見笠松平三と撞見相違つ。悪棍脚平足平ハ
 られが為ふ打殺さす。刺三勝ハ赤根半七が引攫す。往方もたどど
 ろりしうぶ太の追立。鶉言鷹も捉らまはる心持しつ平三をち捨す。
 られを追蒐。泥よ塗まら。索りけしが終よあらど。真葛か原のはらりまて
 夜のあふくと明まら。甲夜の聞緯より引けがた。まむしも立休らねが
 殆疲勞す。腰うち伸し。互に面をえあつ。呆まら。立在折し。ゆめは捕ら
 の夥士いりくと走りあふ。直とさう圍矢度と捕んとす。鬨く。あせ全八

南柯夢卷之四



曾右衛門
格
今市
生
物
拘
る

今市王八郎



下部使字加八

後松目太郎

布原陳九郎

南木變者之田

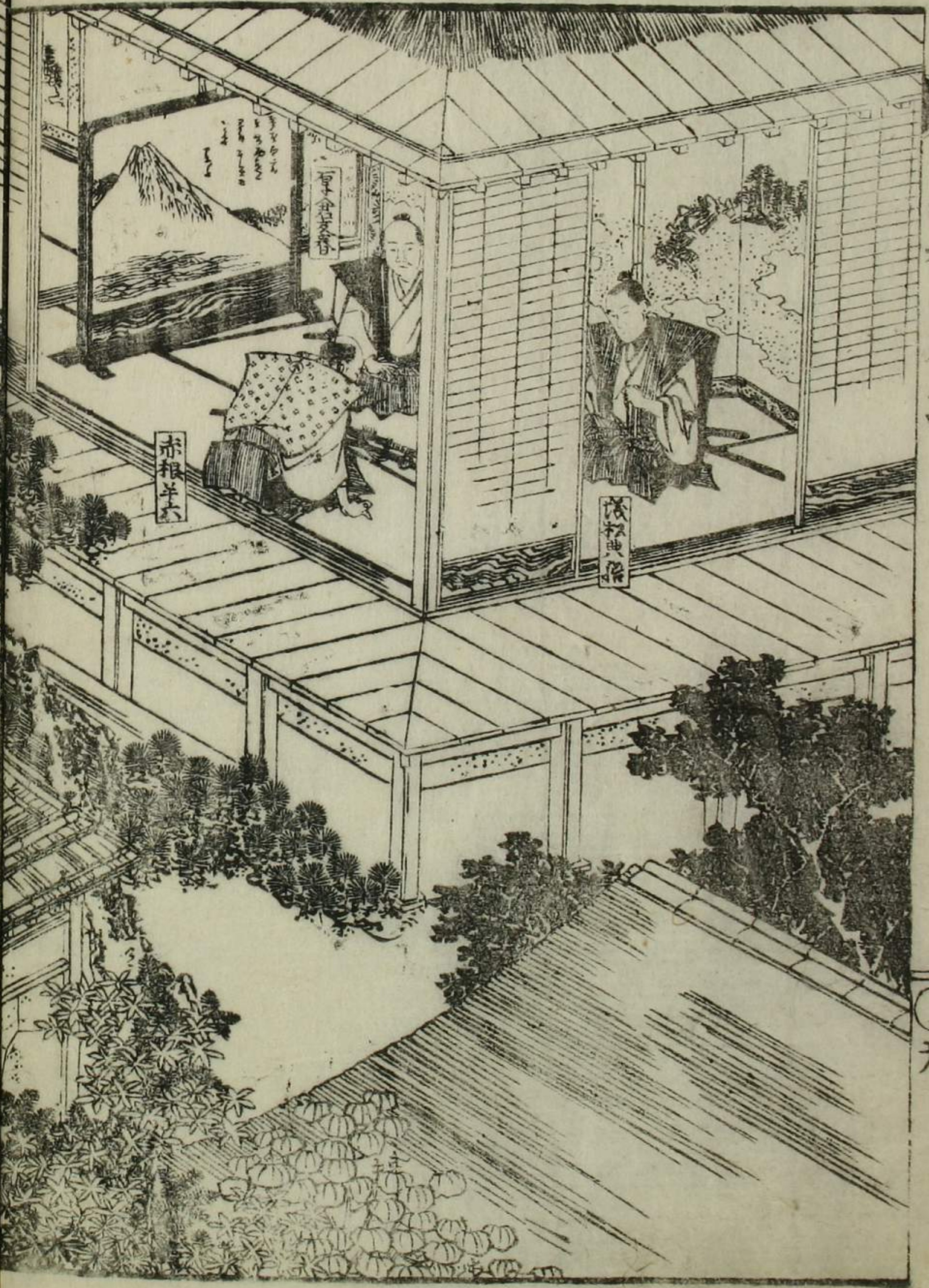
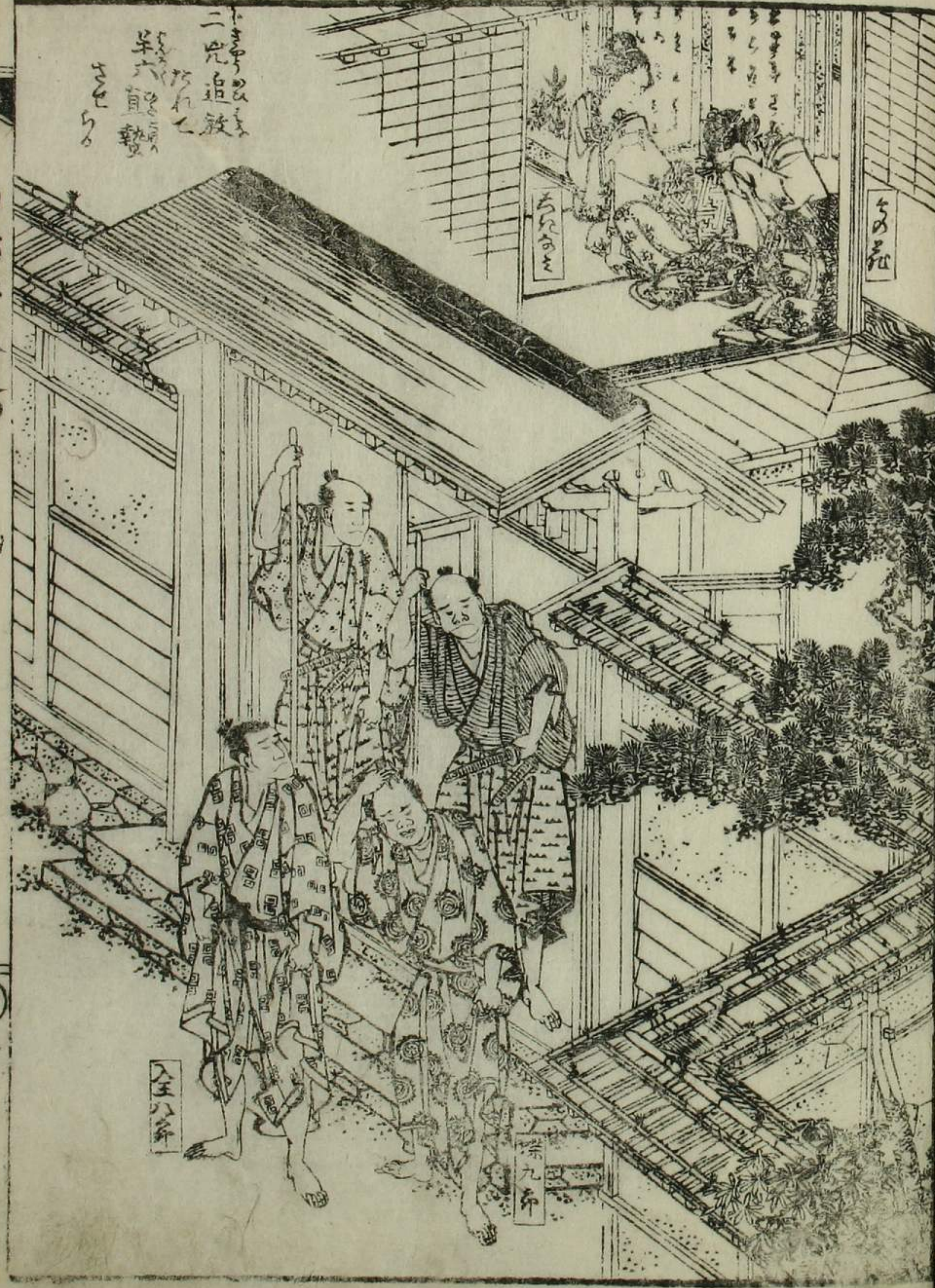
づくよ件の足平脚平ハ隠るを悪棍あり。死後は舊悪露頭せん。
 彼のホを殺すのの往方を尋ねるる等困ごと風声を平三
 ハこれをばしう。少くはうらわらむと猛は路を立退くが此の時も
 ぞやせま。少くやうはとせむいり。昔もの零落とけと茶良
 あり。膏を賣るる。彼西の世をさるる。便宜の地を且ん。今度も
 南都へ行くべと。かゝる宇治の旅宿を立出。直に彼地は到り。か
 昔相織も人もおほく世をさる。頼むを蔭もほ。さるが宿衣
 服を賣るる。旅籠も宛れど。ともも竭く。い。さる。ぬり。さる
 笠を裁。さ。さ。柄杓をのら。観音の灵場を願礼する。行者
 小打坊。毎日南都の街衢を徘徊。往來の人の袖は附。あ。商人
 の店前。立。食。や。日。命。を。

百度の願事

厚倉二郎。太夫。春。密。赤根。羊。七。謀。の。彼。三。を。さ。し。
 相伴。ひ。松。曾。の。親。立。忠。の。仕。使。多。れ。られ。謀。を
 授。全。八。蝶。九。郎。を。搦。捕。後。身。の。身。の。七。か。五。條。の
 旅。宿。直。は。祇。園。の。旅。館。多。り。吉。推。九。蔵。君。の。怒。甚。く。を。告。
 今。市。布。施。が。奸。忠。羊。七。が。孤。忠。と。僧。の。演。説。と。く。轎。を。さ。し。
 南。都。へ。入。供。つ。と。と。吉。推。九。郎。の。名。を。さ。し。
 後悔。且。又。の。怒。を。畏。る。全。八。蝶。九。郎。が。奸。佞。を。憎。む。さ。る。の。手。七。は
 不。忠。不。義。の。名。を。被。せ。る。誤。を。招。く。罪。い。ふ。う。只。明。白。お
 勸。解。さ。り。て。併。され。自。叙。せ。んと。回。答。す。る。ひ。定。ま。る。事。を
 る。二。市。布。施。の。顔。は。感。傷。く。傍。ら。う。と。さ。る。の。続。井。家。の。郎。君

その罪を宥ぐ。就中赤根半七の物の用ななるを、若くは、
 中の立務ら。日味重く用ひらるゝ恩を蒙るゝ恩に及ぶる白袴之
 彼が往方へ草を蒔拂ひても、雲よは典膳とありとも、全八郎九
 弟を鞠同せ。半七がゆへも、なほとて、小膝を敲く作
 すれば、二郎大夫謹く。それをうけあがり。又まうと、吉推君は
 對面して、老臣ホが、安うしめあう。とまう世うが、順昭さば
 秀川あまるといふ。そのとて、二弟大夫ハ、吉推九の子舎よいゆきて、一五一十
 を告。債く舊の取まらぬ順昭ちく吉推を、此度のふつて
 近臣ホが、非法の奉止の主の悞まれど、口を弱官るれば、よくも
 咎む。以後を、教訓を、吉推、始終改を、低奉れ、かまらざる
 退物なり。さる程、松典膳ハ、君命を蒙る。二弟大夫とて、全八

郎九弟を責問ふ彼ホハ、身の罪を、半七を、
 吾儕愚より、半七は、三條を、
 後のもの、竹地へ、ゆえんも、此度の奸計を、半七が、
 せよ、却彼のの、服を、吾儕の、
 是非及ぶ、回答を、嚴く、責問も、その外の、
 曲膳へ、半七を、憎む。這奴柴賣の、
 蒙り、近臣の上、列り、刺す、女児園花を、
 あり、その才、受と、彼大自の、近曾、
 あの、才、や、忽地、驕り、君を、
 を、相、女、通、これ、面目を、
 癖者、半七、論、その、罪、

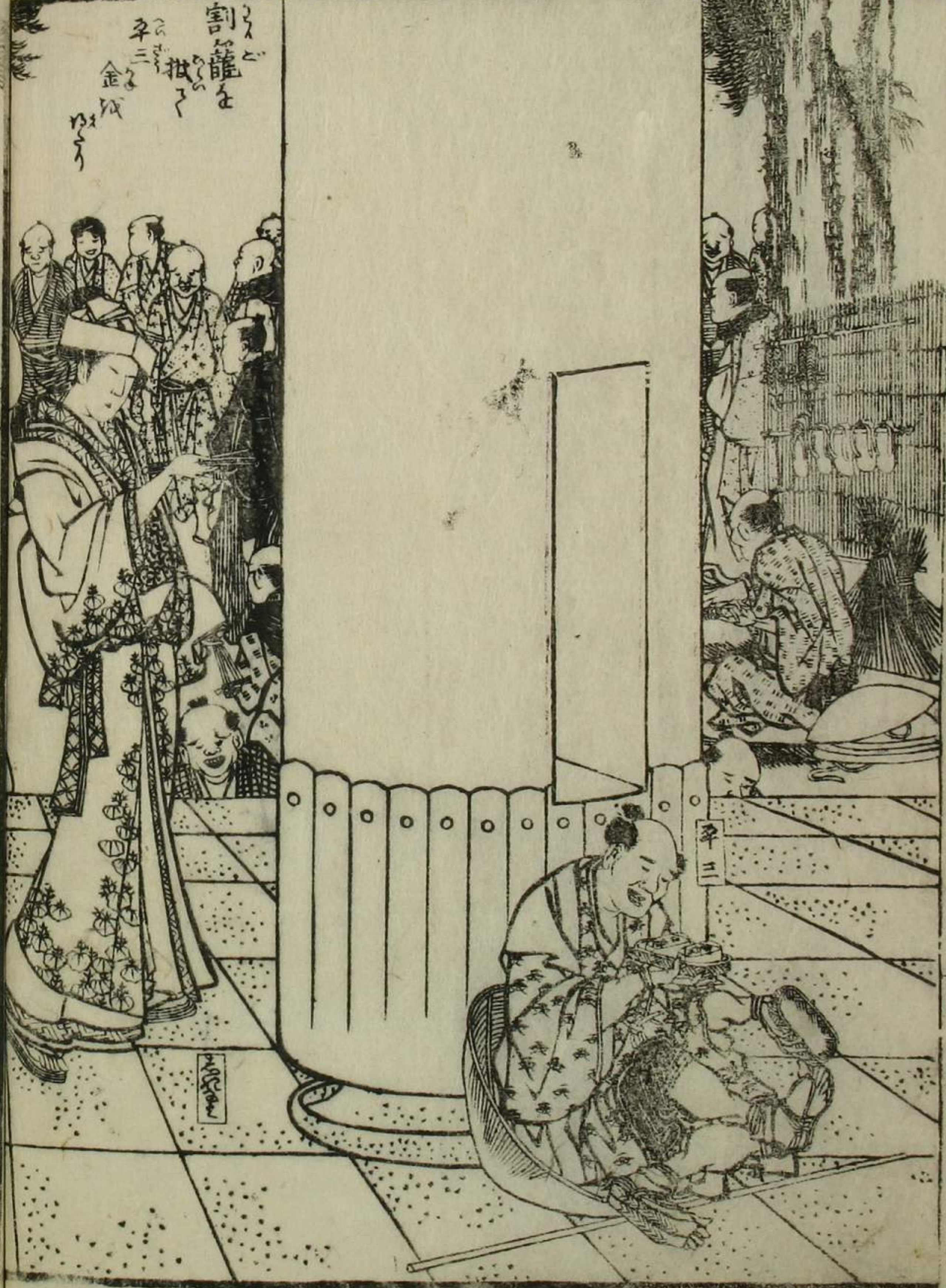
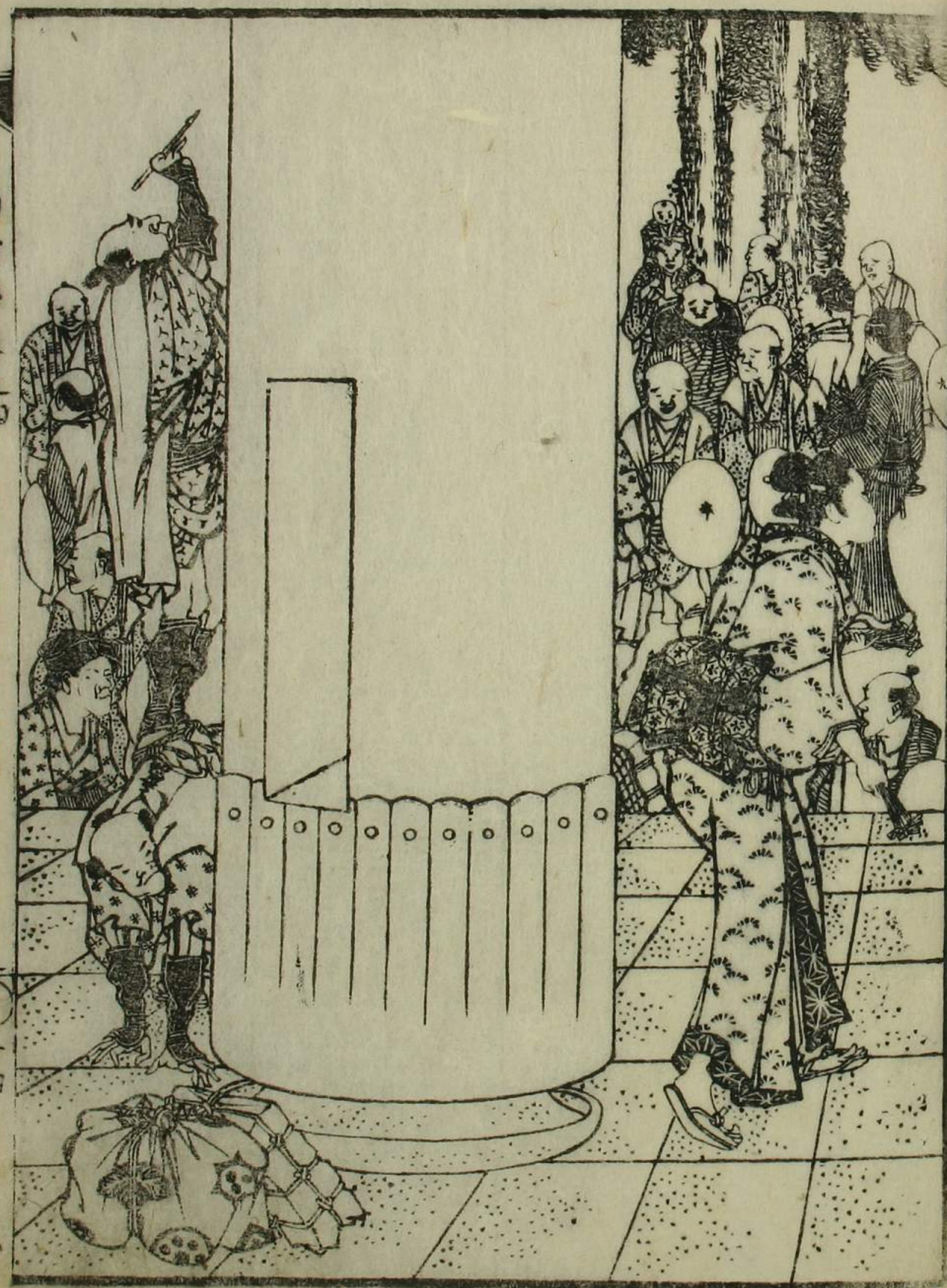


南和堂卷之四

九

かりりたれば。いふくは恨は堪どされば。日來博士よりて。
 親の疎を用ひど。の禍を惹出せり。這奴憎し。ちくど。さそがふ
 恩愛の悲し。その往方も。あつた。怒り罵り。又あつた
 へらち。歎。天日明。つと。も。が家の。いと。暗く。絶。訪人の
 ざれば。百愛を慰む。さ。おほ。げ。榮枯得喪。四時の代。病。いりえ
 出る。梢の花。後。も。先。づ。も。づ。秋。の。あ。る。べ。た。彭祖が命長
 かり。の。子孫。あ。つ。つ。石崇が富貴。り。も。生涯。を。と。ま。ま。と
 ぞ。徳。ま。じ。く。貴。が。ん。と。願。へ。た。富。く。驕。りの。ち。亡。と。や。禍。福
 吉山を。電。の。ト。部。は。同。ん。う。尾。を。佐。中。は。曳。あ。ふ。う。ど。ま。六。ら。の
 と。た。ま。米。谷。の。楠。を。伐。い。る。り。と。後。悔。し。論。孫。が。疎。え。あ。ひ。出。れ。て。
 朽。を。く。ま。と。今。の。その。う。ひ。あ。り。けり。る。程。は。園。花。の。ま。り。く。ま。せ。が

り。成。さ。ひ。母。より。て。病。を。わ。れ。お。増。つ。ゆ。び。う。ち。臥。し。く。り。絶。て
 首。を。擡。ぞ。え。来。想。思。病。の。り。る。ん。ば。醫。師。も。眉。根。を。く。せ。疎。あ。ら
 平。愈。さ。ず。か。つ。ん。と。い。ふ。は。典。膳。ハ。安。た。ち。も。あ。く。敷。浪。ハ。毎。日。は。奈。良。の
 大。仏。は。糸。清。し。百。度。糸。と。い。ふ。る。沢。く。女。児。が。病。見。頼。は。奉。復。の。せ
 ぬ。と。禱。の。外。更。お。地。さ。り。り。り。と。い。は。さ。く。あ。た。松。平。三。ハ。奈。良。の
 巷。を。徘徊。し。て。歌。祭。文。を。唱。乞。食。し。く。日。を。ま。さ。ふ。頃。も。九。月。の
 廿。五。日。さ。り。ぬ。い。ハ。高。天。神。の。會。日。な。れ。ば。と。く。彼。社。派。は。立。在。糸
 指。の。老。弱。は。袖。を。と。借。り。て。頼。の。代。糸。く。ち。何。く。て。後。者。五
 七。人。を。お。り。る。武。士。門。前。の。茶。店。は。懸。ひ。馬。を。下。店。前。は。懸。が。その
 派。は。お。り。り。り。り。り。り。り。主。後。割。籠。を。扱。く。お。も。平。三。と。れ。と。え。り。
 衆。さ。の。母。より。ふ。い。ゆ。た。後。者。は。對。ひ。く。飢。る。順。礼。の。初。者。は。の



割籠を
三三
金成
三三

日本書紀卷之四

三三

の為ふと審みしらんハウダク。おづとの際畧をせえちとぞ。いぬる頃
 そろふを祇園の旅館よびさうまひる即君ハサあつちまが主君あつた
 ひとり人ニ在るさうり。借し。俗は直ひあつち。近臣よ至るま心明白なるを
 借し。借酒子耽りあつち。倭人むかへめふれど世はせえち。十六て即君
 の就度とさうりて。つらつ。桐の出来る人も量がじぶるふらう。大尉さうり憤
 お海一遊さうり。愛子をもつづ。失えんとしたせえち。家隸ホも
 ちふ行を握り。周章大さうり。もさうり。借し。借人むかへめふれど世はせえち。十六て即君
 て即君を借酒よびさうり。向うを伎倆あつち。さうり。敗さうり。奪さうり
 とせう。さうり。病かろ。旅宿を異し。且生居も自在
 さうり。果さん。おの
 ともあつち。同志の忠臣借さうり。旅宿よ借さうり。お中の機密を告

そろふ。奪まて。これ代。それとさうり。密通。その非を掩人。為。即
 君。假。托。贈。の。計。較。その。發。覺。奪。り。た。風。声。せ。即。君。の
 ち。悪。名。を。雪。べ。主。家。に。綱。ま。と。相。結。は。り。親。を。捨。身。を。捨。妻。子
 を。顧。む。不。茂。の。儒。衣。を。被。る。雨。夜。の。暗。紛。ま。西。旅。を。投。る。芭。菴。か。
 志。し。せ。も。それ。は。遠。は。質。かり。縁。も。好。む。人。を。虐。く。忠。義。よ。と。
 の。い。を。も。純。く。も。あ。つ。か。せ。れ。主。家。に。た。り。家
 隸。老。黨。ハ。さ。う。り。その。妻。子。よ。至。る。ま。心。離。散。せ。い。その。人。の。歎
 ろ。ん。身。を。救。く。野。の。人。を。助。る。る。れ。と。ひ。辯。れ。借。く。殺。む。鬼。じ
 と。忠。義。ハ。換。る。慈。悲。ハ。あ。さ。う。り。そ。ろ。ふ。を。救。と。さ。う。り。
 腹。を。切。仇。も。怨。む。人。を。救。り。罪。ハ。贖。ふ。が。又
 そ。ろ。ふ。の。親。竹。が。あ。つ。ち。と。さ。う。り。折。を。め。ち。報。を。さ。う。り。



三ノ



白川越子
三ノ
殺さん
とん

南無阿彌陀佛

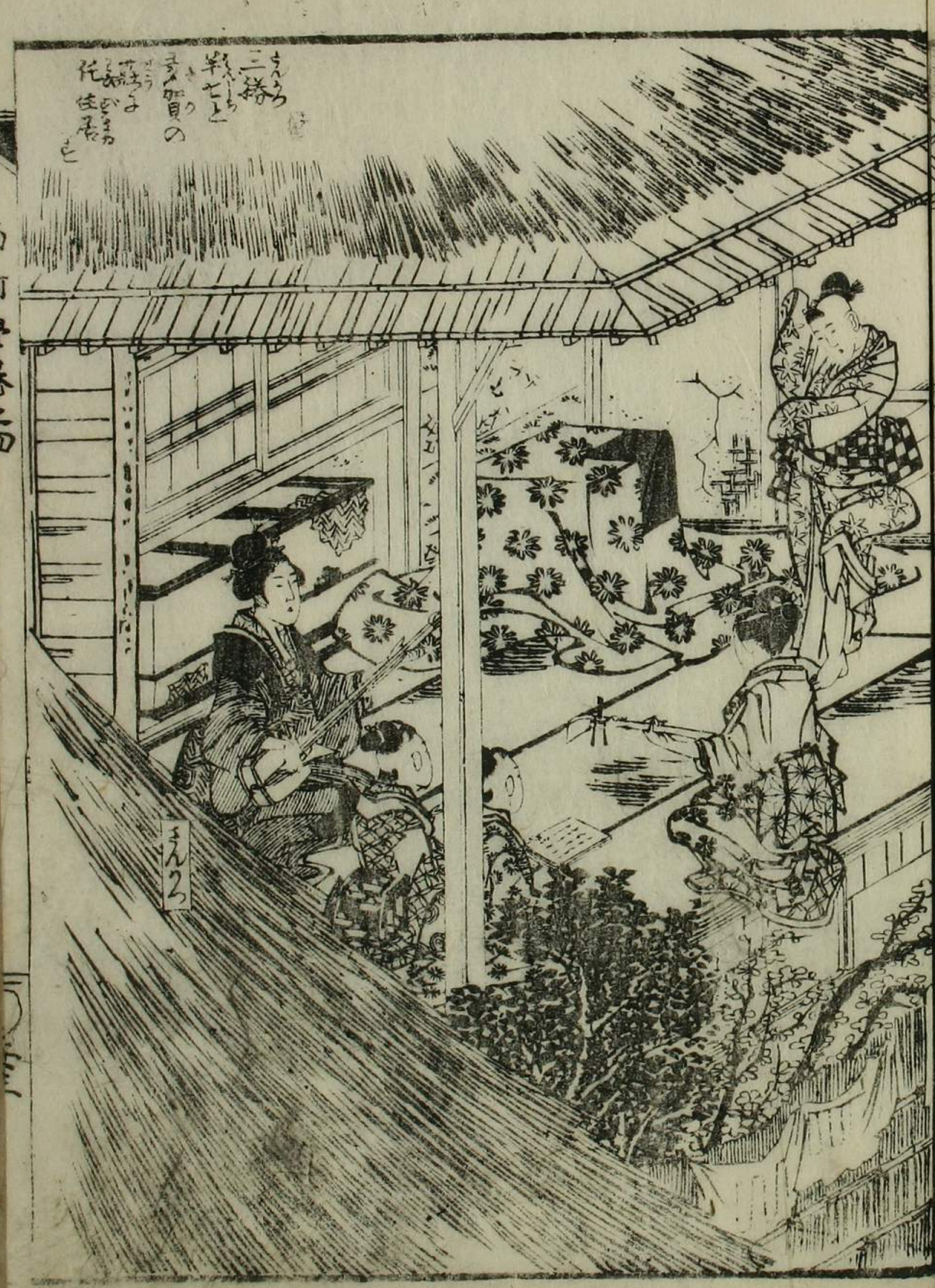
〇六

それとちよびとも。又やそめを殺さんとせし。兼勿の卒止は似せんとも。一
 夜ありとも伴つ。牙を齧くまで。とぞひ定り。誠心ハ誰かるとぞひ
 むふ。かちらばるる言のみ。とぞも終るるあふ。び空ふ不思淺の對面
 くとも。首尾を物づれば。三傍涙を堰うねて。多うのとぞれ。か為は。化し
 妻をわらねど。とさあも愛ど情も。川とぬ人の忠義ゆゑふ。うらむ
 色情の存し。負ふ。つも傍ま。志を。なほ。何う恨も。けしん。さる
 ては。いひ。ま。と。言の。せ。お。の。神。の。在。ね。ど。指。の。致。を。舞。の。存。よ。ひ。う。ま。で。ふ
 ぞひ。君。の。う。ま。く。大。和。語。か。あ。う。と。と。う。つ。妹。と。夫。の。山。の。う。ひ。る。く。隔。られ。か
 ふ。ひ。る。お。あ。し。さ。も。も。雲。の。た。び。を。ひ。と。も。の。空。の。と。瞻。て。月。も。日。も。さ。る
 ん。照。び。ぬ。ぬ。う。と。か。ち。ら。け。し。が。や。各。告。あ。ふ。う。年。來。の。志。の。い。く。な。る。か。い
 命。自。惜。く。今。の。養。父。又。ハ。三。三。と。は。ま。と。う。卑。れ。世。も。う。の。と。ぞ。れ。ど。ぞ。ま。ま

ハ立拂りて。財宝の為ふ惑され信義を失ふ人ふあは。恩愛もいとあは。とぞ
 福の孝行もえつ。とさ。又母の生死も同定り。て墓も。う。う。け。る。の。いと悲く
 ハの道。と。縁。故。も。あ。う。ぬ。ぬ。園。花。と。と。や。え。よ。妬。ま。ん。ハ。罪。を。悔。ふ。う。ハ。身。の
 忠義ふるる。か。う。バ。叙。し。と。と。う。た。口。授。芝。生。よ。せ。成。立。堂。を。合。し。白。く
 妙なる頂を伸。一花咲る。姫百合の散とを。返。し。と。う。の。半。七。と。ぞ。く
 嗟嘆し。て。それ。を。め。え。し。ら。ぬ。叙。え。ん。と。と。ひ。定。り。ハ。身。を。齧。く。せ。ん。と。て。う。め。は。よ
 既よ。若。妹。子。あ。り。と。と。い。く。これ。を。殺。す。ハ。義。子。違。へ。り。され。ば。と。く。夫。婦。の。う
 と。も。不。存。命。て。ハ。う。た。忠。義。は。假。托。し。逃。も。歟。も。あ。ら。う。あ。ん。ど。い。ハ。ま。ん。ハ。新
 護。厚。倉。や。一。面。が。せ。と。され。ば。と。く。そ。も。を。殺。し。て。ハ。丹。波。都。ど。の。ハ。誓。言。ゆ。ひ。し。は
 母の言。渡。り。の。つ。ら。う。ら。う。と。ぞ。も。の。た。ま。か。く。存。命。と。福。経。を。三。三。い。の。ま。る
 あ。ひ。孝。行。を。そ。う。と。く。義。を。ま。れ。が。不。孝。う。う。只。死。べ。た。ハ。か。身。ぞ。と。い。ひ。つ

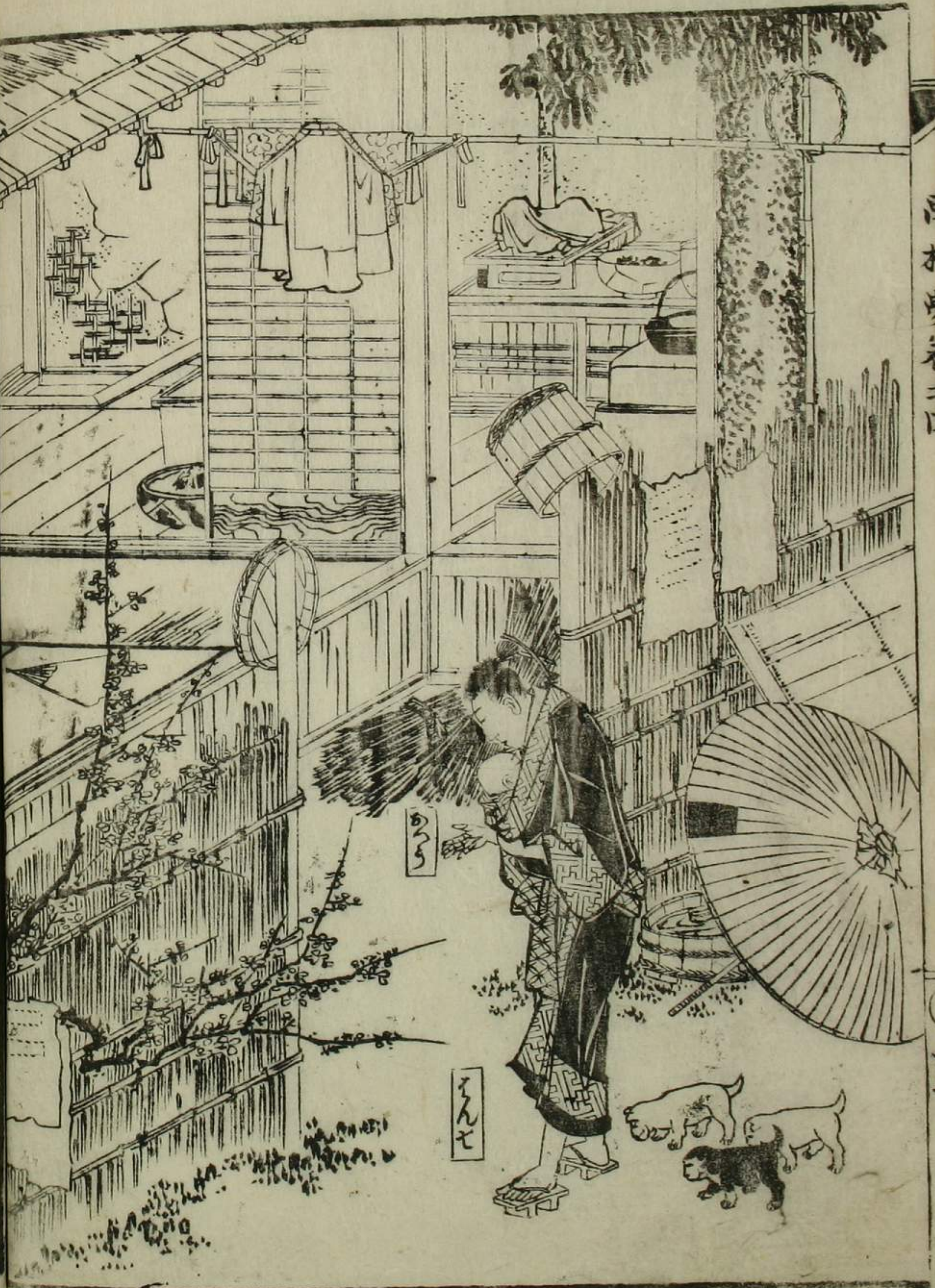
刀を抜けし三務懐く携へて通るは子たむをひそ。忠孝を才を
 殺しぬらむと三務のりともふ死ねとらひらび生残り。物思ふ情あり。
 言の葉よ似く情ありしや人の何れも親と親と誓言つ。許せしは
 の妻もいふや。のろともふを去て影護しとおぼるる。多うそ死なれ
 のと理ありと恨ごち。推し添ふる刀の鞘も落る涙あり。較の玉も敷きと較
 人の敷きもわい。や衣はまろ。す七の三務は棟ら且。ほくくとさひく
 刀をみさむ。げふとれまろ。恨てり。そまも殺す。それも死す。僧よらの
 地を立退く。一日くとも妻と嘆び夫と嘆び。年暮の即棟を報
 亡母の庭の別も忠も義も。袋ぞ絆ふる。今もらふとら分る。
 胸の鐘もゆひえて。樂昌公主の故事も。慢もさひ出れつ。誘ふとて
 邪を起せば。つが身もらふ。三務が頂より外と掛紐も。さやぬまうい

ひとぶの神。送代の形見え。全王聚も悪因縁。うそれとも。郎君の
 ん悪夜ぶ雪る。夫婦がうの敷る。とらく。入のそれも。罪ゆるん
 うとさひ。大和のぬ山の袂を。ううさけ。瞻ま。月魄も。傾く木
 間備る。遠寺の鐘も音つ。草葉も集ぐ。虫の声い。衣を
 十寸穂の薄う。夫婦は。先ま。ゆく。夜ふ。白河山を
 らう。湖水を。漣や。か。陰も。天の。明も。
 かくて。三務の。由縁の。近江國。賀莊の。佐木の一
 族在城。俗も遠。便宜の地。豫。事
 船。彼。橋。此。三味線。樂器
 三務。を。三務。又丹波都。彈初
 の。昔。三務。日。做



二橋
半七
まの目の
佐子
佐子
佐子
佐子

まの目



まの目

まの目

この廣き宿より舊の狭い家が住み。翌ハ夏賀へ歸り。冬とくは
 あり。彼をえ我をよみぬ。お七のいふ肥をこねる。鰯魚の溜り
 異なり。んが三撈がむほそふらう。ん。寔は是。苦中の苦。秋ハ
 三つ。おむらの秋。とく。のらう。とく。

三七全傳南無夢卷之四終

